

祝 辞

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会

会長 山東 昭子

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会の諸事業の実施につきまして、全国の特別支援学校(聴覚障害)・聾学校(以下聾学校)の皆さま方のご理解とご協力並びにご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

このたび令和となって2回目の第54回全日本聾教育研究大会が、ここ埼玉県さいたま市び坂戸市の地で、埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園及び坂戸ろう学園を主管校として開催されますことに心よりお祝い申し上げます。

今大会の大会主題は「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」です。今年は、3月から全国で、新型コロナウイルスが広がり、感染防止のための開催方法を何度も会議を重ねて検討してきたと聞いております。今年度は、会員一人一人が顔を直接合わせての研究会は出来ませんが、リモートアクセスを通して全国各地の各聾学校と会場校とをウェブで結んで開催に漕ぎ着けました。本当に大変だったと思います。社会はこの状況の中で大きく変わり、働き方、生き方も選択を考えなくてはなりません。こうした中、これからの子供達は、情報を早く探し、深く調べ、そして、正しい判断力の中で情報を活用し、よりよい選択を迫られることになりそうです。生きる力を育むことはこれまで何度となく叫ばれてきましたが、現在の聾学校を取り巻く状況の変化は、これまで以上に速く変化することを考えていかなければなりません。社会の中で、どう生きていくのか賢さと本当の意味で学びを続けなければならない時代に移行しつつあります。いずれにしても聾学校は多様な教育的ニーズに対応しながら変化の激しい社会の中で、一人一人の子供たちがたくましく生き抜いていく資質・能力を育むことが求められています。

当協会は創立以来89年を迎えました。毎年行っている事業が今年は、いくつも出来ないという大変な事態になってしまいました。このような中、公益財団法人JKAの競輪公益資金による補助事業として、FM補聴システムの無償貸与事業を実施し、合奏コンクール、聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会は、開催する計画です。今後も聴覚障害教育の一層の充実・発展・振興を図ってまいります。皆様方の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

結びになりますが、埼玉大会の開催にあたり、ご尽力されました皆様方に深く敬意を表しますと共に、聴覚障害教育の充実に向け、全日本聾教育研究会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。